

メッセージアウトライン

コロサイ人への手紙 4:2~4 「祈ってください」

[2] 「目をさまして、感謝をもって、たゆみなく祈りなさい」

① 「目をさまして」とは「しっかり目ざめて」という意味。しばしば弟子たちは大事なところで眠り込む。→マタイ 26:40 パウロは祈りの時に眠ってしまったり、注意散漫になったりしないで、霊において、心において集中して祈ることの大切さを教えている。そのためには日々の時間管理が大切。

② 「感謝をもって」…祈りとは私たちの願い事や希望を神の前に申しあげることだけではない。今日にまで至るさまざまな恵みを覚えて感謝をささげることが大切である。

③ 「たゆみなく祈りなさい」…勤勉に、執拗に祈る。→マタイ 7:7~8、ルカ 11:5~10

[3] 「同時に、私たちのためにも、神がみことばのために門を開いてくださって、私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。この奥義のために、私は牢に入れられています」

パウロはコロサイ人たちに祈りを勧めるとともに、自分たちのためにも祈ってほしいと願う。パウロほどの信仰者ならば他人に祈ってもらう必要などないのではないかと考えるかもしれないが、そうではない。祈りの支援は力があるものなのである。→出エジプト 17:8~13 (モーセの祈りをアロンとフルが助けた)

パウロは祈ってほしかったことが山ほどあったに違いない。しかし、彼は自分自身の身の安全のことなどよりも、ただキリストの栄光と福音の宣教を大胆に優先させ、自分の果たすべき務めを最善に果たせるようにと願っている。「門を開いてくださって」とは福音を宣べ伝えられる機会が与えられること。彼の願いは、牢から解放されて平穩無事な生活を送るためではなく、福音をさらに広く、さらに遠くまで宣べ伝えるためであった。

私たちも伝道の第一線で働いている働き人たちのために祈りをもって支えていかなければならない。また、私たち自身も同じキリスト者として自分の都合、身の回りのことだけを優先させるのではなく、パウロの心を心として、その置かれている所で福音を宣べ伝える者になりたい。

[4] 「また、私がこの奥義を、当然語るべき語り方で、はっきり語れるように、祈ってください」

福音のための門がどれほど大きく開かれても、語ることばがはっきりとわからなければ、誰も理解できない。また、確信をもってはっきりに語るのでもなければ真実に受け取られないだろう。パウロほどの信仰者でもこのような祈りの要請をしている。しかし、よく考えてみれば、祈りの援軍を必要としない人などひとりもない。主イエスさえあのゲッセマネの園で弟子たちがそばにいて祈ることを求められた。→マタイ 26:36~41

私たちも目をさまして、感謝をもって、たゆみなく祈り、また、福音のために働く人々が、この福音を当然語るべき語り方ではっきり語れるように、祈り支える者となりたい。